

これ1本でふんわり上質な仕上がり

ファッションドライ

使い方ガイド

目 次

- つけおきで洗う……………2
- 干し方……………8
- 仕上げ方……………9
- 洗たく機の「ドライコース」……………10
などで洗う
- お洗たくのコツ……………11
- こんな事が起きないために……………15
- ファッションドライQ&A……………16

WEBからも「使い方ガイド」がご覧いただけます

コープ ファッションドライ

検索



https://www.coopclean.co.jp/site_fashiondry/

商品情報はこちらから
声もおきかせください

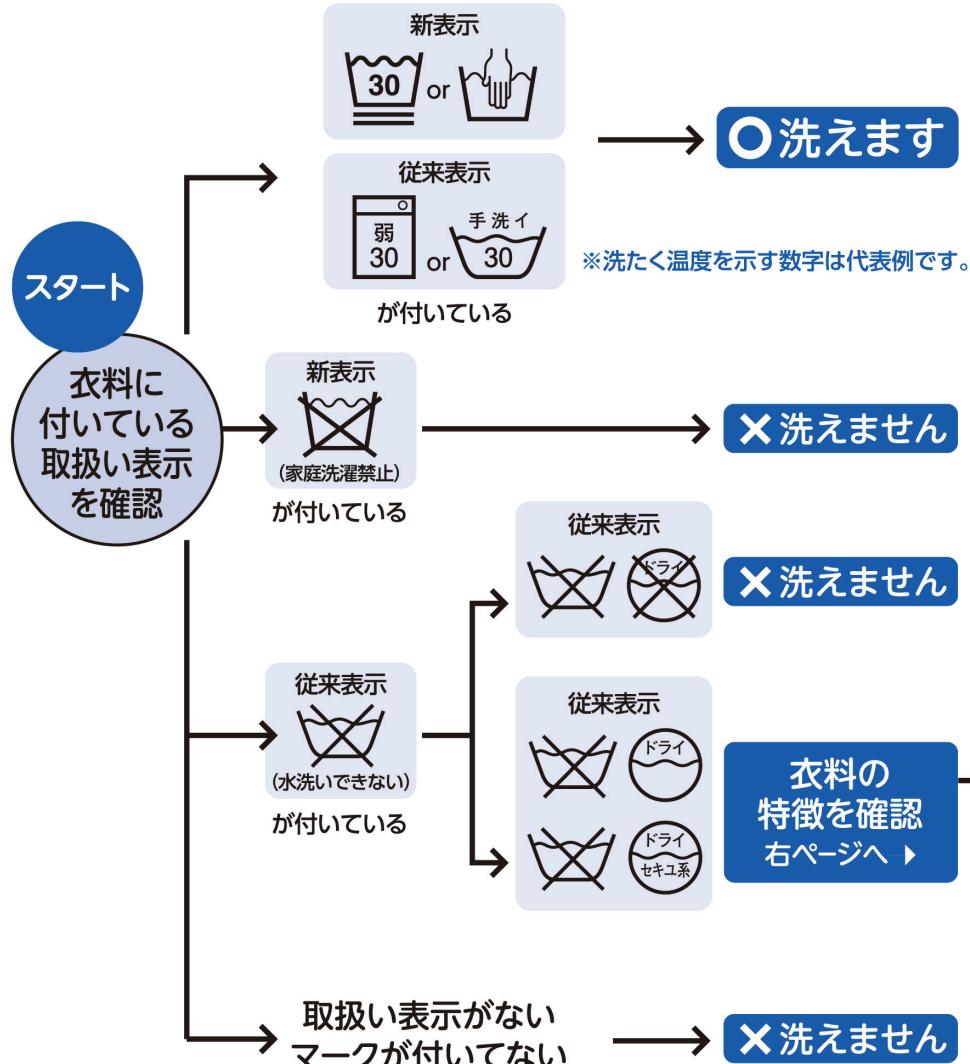
つけおきで洗う

洗えるものを確認

衣料の取扱い表示が2016年12月より変わりました。

※こちらは「つけおき洗い」での見分け方です。

洗たく機のドライコース使用の場合は洗たく機の取扱説明書をご覧ください。



洗えません

●水につけるだけで、縮んだり、表面変化する生地の衣料

- ・レーヨン、キュプラ、ポリノジック、ビスコースやその混紡品
(裏地として使用しているものも不可)

- ・絹やウールの強くよじった糸(強燃糸)の衣料
(クレープ、ジョーゼット、ちりめん)

- ・ベルベット、別珍、スエード
・エンボス加工、シワ加工、樹脂加工品

●芯地を多く使っているなど、型くずれしやすく、仕上げにくい衣料 (コート、ネクタイなど)

●皮革、毛皮製品(人工皮革含む)、装飾物のついた衣料 (特殊なボタン、飾りのついたもの)

●色落ちしやすい衣料

(色落ち確認で色落ちするもの)

●洗たく絵表示のないもの

(和服、和装小物、外国製の衣類など)

洗えます

●セーター、カーディガン (ウール、アンゴラ、カシミヤなど)

●ブラウス、シャツ、ワンピース (綿、麻、絹など)

●学生服、セーラー服 (ブレザータイプは除きます)

●その他、素材が合成繊維の衣料 (ナイロン、アクリル、ポリエステル、アセテートなど)

●スラックス、スカート

●ダウンジャケット、ジャンパー [14 ページを参照](#)

●毛布、うす手の布団、カーテン [12 13 ページを参照](#)

※防水性、はっ水性衣料(スキーウェア、レインコート、寝袋など)を脱水する場合は、洗たく機を使わず、手で押さえて脱水してください。

! 素材の不明な(洗たく絵表示のない)ものは洗わないでください。

洗たく物の仕分けと準備

1 ポケットを点検する

小銭、紙くずや砂など、中に残っていないか点検します。

2 洗たく物を仕分ける

白物と色柄物、アンゴラセーターなど毛のつきやすい物などを分けて洗います。

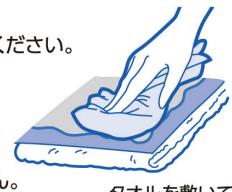
3 洗たく物をチェックする

●色落ち確認

特にプリント染め、極端な色使いの物は洗う前に必ずチェックしてください。

[色落ち確認の方法]

- ①色落ちしそうな部分(裏地のない目立たないところ)に
白いタオルを敷き、ファッションドライの原液をつけます。
- ②1~2分後に別のタオルで強く押さえ、下にあてたタオル
への着色(色落ち)を確認します。※色落ちするものは洗えません。



タオルを敷いて

●ボタンのチェック

色落ちが心配なボタン、皮革、木製のボタンは、アルミホイルでくるんで洗たくします。

●裏返して洗う

パール、ビーズなど装飾物のついた衣料、絹、レーヨン類混紡品など傷みやすい衣料、ラメの衣料は裏返して洗ってください。

4 前処理をする

シミやえり・そで口のひどい汚れなどがある場合には、あらかじめ前処理をしておけば、すっきり汚れを落とせます。シミがついてしまったら、できるだけ早く処理しましょう。以下の絵のように汚れに前処理を行った後、すぐにつけおき洗いをしてください。

①衣服の裏にタオルを敷きます。

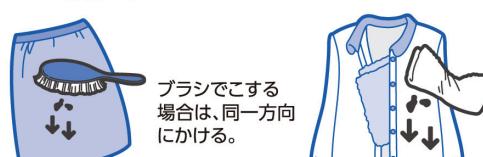
前身頃と後身頃の間に
タオルをはさめば、裏移り
の心配がありません。



②シミの部分のまわりに たっぷり水をかけます。

霧吹きで何度も吹き
かけるのもよい方法です。
なければぬれタオルや
コットンを使ってください。

③服地用ブラシやコットンに原液をつけ、シミ の部分を軽くこするか、たたくようにします。



ブラシでこする
場合は、同一方向
にかける。

※油汚れ、泥はね、えり、そで口の落ちにくいシミ、汚れは、
同じ要領で原液をつけ1~2分置いてから軽くこするか、
たたきます。麻は色止め加工が難しい繊維です。こすり
すぎると、色落ちの心配がありますので注意してください。
※絹衣料の場合は、必ずコットンでたたいてください。



このようなシミはファッションドライでは落とせません。

- 汚れてから日数の経ちすぎたもの
- 化学変化したもの(パーマ液、塩素系漂白剤など)
- 鉄サビ・カビ・墨汁・インキ
- 日光で黄変、変色したもの

洗たく液のつくり方

まず、水にファッションドライ液を入れ、軽くかきませてください。

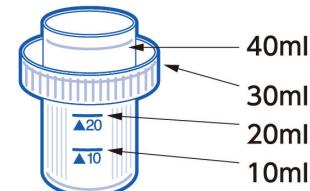


必ず新しい水を使用してください。

- お湯・おふろの残り湯、1回使用した洗たく液は使用しないでください。
- 縮みや型くずれを防ぐため、30℃以下の水を使ってください。

■使用量の目安

水10Lに対して10ml



キャップ1杯は
約43mlです

	洗面器	洗面台	バケツ
水量	約1.5L	約5L	約10L
ファッションドライ量	少量(1.5ml)	5ml	10ml

	洗たく機を利用してつけおき洗いをする場合			
水量	65L	55L	45L	30L
ファッションドライ量	65ml	55ml	45ml	30ml

★水量は洗たく機により異なります。洗たく機の表示や取扱説明書などで確認してください。

★ドラム式洗たく機でのつけおき洗いはできません。

■洗たく物量の目安

洗たく物が充分水に浸る程度に水量を加減してください。

- (例) 洗たく液30Lで洗える量
- | | |
|--------------|--------|
| セーターだけなら | 約4枚まで |
| スラックスだけなら | 約7本まで |
| ブラウス、シャツだけなら | 約15枚まで |

お洗たく方法

「つけおき」「すすぎ」「脱水」の時間をお守りください。
洗たく機を回すのは「脱水」のときだけです。

洗うものの種類 すすぎ1回

つけおき

脱水

すすぎ

脱水

ブラウスなど
薄手の衣料
綿、麻、絹などの
ブラウス、ワンピース、
シャツ、下着



1~3分

収納するときのように
ていねいにたたんで
洗たく液に
つけておきます。



5秒

たたんだまま
脱水槽に入れて
本回転から5秒間
脱水します。



1分

たたんだまま
きれいな水に
つけておきます。



5秒

たたんだまま
脱水槽に入れて
本回転から5秒間
脱水します。



洗うものの種類 すすぎ2回

つけおき

脱水

すすぎ①

脱水①

すすぎ②

脱水②

セーターなど
冬物衣料



3~5分

収納するときのように
ていねいにたたんで
洗たく液に
つけておきます。



10秒

たたんだまま
脱水槽に入れて
本回転から10秒間
脱水します。



1分

たたんだまま
きれいな水に
つけておきます。



10秒

たたんだまま
脱水槽に入れて
本回転から10秒間
脱水します。



型くずれの
気になるもの



3~5分

軽くたたんで
洗たく液に
つけておきます。



10秒

たたんだまま
脱水槽に入れて
本回転から10秒間
脱水します。



1分

たたんだまま
きれいな水に
つけておきます。



10秒

たたんだまま
脱水槽に入れて
本回転から10秒間
脱水します。



毛布などの大物



毛布、夏掛けふとん、
カーテンなど

10~15分

軽く折りたたんで
洗たく液に
つけておきます。



30秒

たたんだまま
脱水槽に入れて
本回転から30秒間
脱水します。



1分

たたんだまま
きれいな水に
つけておきます。



30秒

たたんだまま
脱水槽に入れて
本回転から30秒間
脱水します。



※洗たく機を利用してつけおく際は、すすぎのときに一度衣料を取り出し、水をためてから衣料を
入れて下さい。

※汚れ方のひどいものは、長時間つけおきしておくより、いったん脱水し、新しい洗たく液でもう
一度つけおきする方がきれいに洗えます。

※脱水は水滴が落ちない程度に軽くするのがポイントです。脱水のしきりはシワの原因になります。



すすぎ①、脱水① の後、すすぎ②、脱水② を行う

「お洗たくのコツ」も合わせてご確認ください。

●ブラウス

11 ページを参照

●毛布やカーテンなどの大物洗い

12 13 ページを参照

●ダウンジャケット

14 ページを参照

干し方

干すとき、手でたたいてシワを取っておくと、仕上げのアイロンがけが楽になります。

陰干し(乾燥) 衣類乾燥機は使用しないでください。

■ 平干し(セーター・カーディガン)

伸びやすいので平干しネットがおすすめ。



おふろのふたにタオルを敷いたもので代用できます。

■ ハンガー干し①(セーター・カーディガン)

平干しきれない時はハンガー干し



ハンガーを2~3本使って衣料の重さを分散させます。

■ うす手のシワになりやすいもの

平干しまたはハンガー干し



タオルドライして生乾きの時にあて布をしてアイロンをかけると小ジワがつきにくくなります。

■ ハンガー干し②(スカート・スラックス)

形を整えてハンガー干し
(伸びやすいものは平干し)



プリーツなどのヒダがとれやすいものは、あらかじめしつけ糸でとめて洗たくし、乾いてからとります。

雨の日など乾きにくいときのひと工夫

■ 衣料の間にすきまをつくります。



スカートは裏返してピンチハンガーで筒状に干します。



ブラウスは肩に厚みのある洗たく物干し用のハンガーや、肩部にタオルを巻きつけたハンガーで干します。

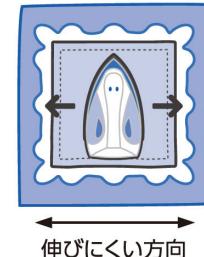
仕上げ方

アイロンは衣料についている洗たく絵表示を確認し、繊維に合わせた温度でかけてください。

上手なアイロンかけ

■ スカーフ

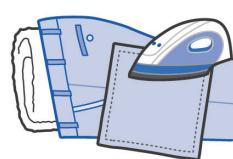
(あて布をしてドライアイロンをする)



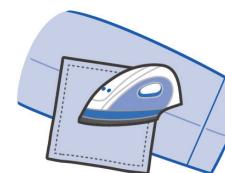
平織りの生地には張ってみて伸びやすい方向と伸びにくい方向があります。アイロンは伸びにくい方向にあててください。

■ スラックス

(あて布をしてスチームアイロンをする)



①バスタオルを丸めて入れ、腰回りを仕上げます。



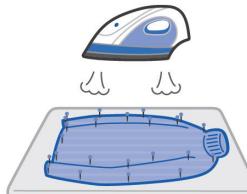
②すそから、また下までの縫い目を合わせながら、中心に折り目をつけていきます。

■ セーターなど

(ウール、絹、麻などで洗たく後縮んだものは、この方法である程度伸ばすことができます。
衣料購入時に型紙を取っておくと便利です。)



①完全に乾いてから、広いアイロン台に、伸ばしたい寸法に広げマチ針を打ちます。



②スチームアイロンを浮かしてたっぷりのスチームをかけ、完全に乾くまでそのまま置きます。

洗たく機の「ドライコース」などで洗う (一般的な洗たく機、ドラム式など)

洗えるものを確認

洗たく機の種類やコースにより、洗えるものが異なります。
必ず洗たく機の取扱説明書にしたがって確認してください。

洗たく物の仕分けと準備

4 ページの手順にしたがって、準備をしてください。
落ちにくい汚れがある場合には、洗たく前の前処理が効果的です。

ファッションドライ使用量の目安

洗たく機の取扱説明書で洗剤使用量をご確認ください。
洗たく機の取扱説明書に洗剤使用量が書かれていない場合は、
5 ページの使用量の目安をご参考ください。

干し方・仕上げ方

8 **9** ページの手順を参考に、型くずれを起こさないように
ていねいに仕上げてください。

お洗たくのコツ①

ブラウス・シャツの洗い方

1.色落ち確認

4 ページの色落ち確認の方法にしたがって、確認してください。
特にプリント染め、極端な色使いのものは、洗う前に必ずチェック。

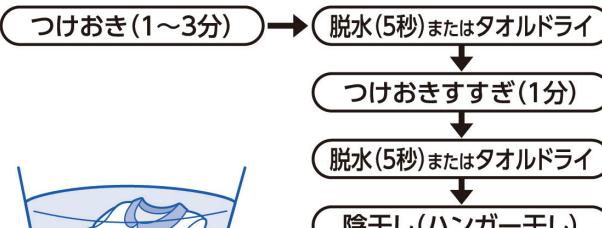


2.シミや汚れのひどい部分は前処理

ぬれタオルなどで、シミや汚れの周囲をぬらし、輪ジミを防ぎます。
タオルなどに原液をつけてたたきます。

※傷みの原因となりますので、決してこすらないでください。

3.軽くたたんで、つけおき



※洗たく機をまわすのは
脱水だけです。



タオルドライ

バスタオルの上に衣料をのせ、型をとのえてから、
さらにバスタオルをかぶせ、軽く押して水分を取ります。
脱水しすぎないのが、洗たく後のシワを防ぐコツです。



両肩をつかんで振りさばき、全体の小ジワを取ります。
えりやそで、すそを軽く引っ張り、型をとのえて干します。



生乾きのとき(干してからおよそ1時間半くらい)に
あて布をして中温(140~160°C)でドライアイロンをかけると、
小ジワがつきにくく、きれいに仕上がります。
乾きすぎてしまっていたら、霧吹きでもう一度湿らせてください。

お洗たくのコツ②

毛布・うす手の布団(夏掛け、こたつ、子ども・ベビー布団)の洗い方

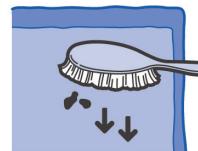
1.色落ち確認

4 ページの色落ち確認の方法にしたがって、確認してください。

2.掃除機やふとんたきでほこりを払ってください。

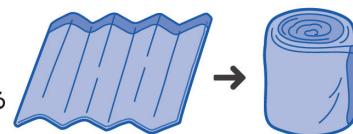
3.汚れのひどい部分はブラシで前処理

特に汚れた部分は、原液をつけたブラシなどで一定方向にこります。

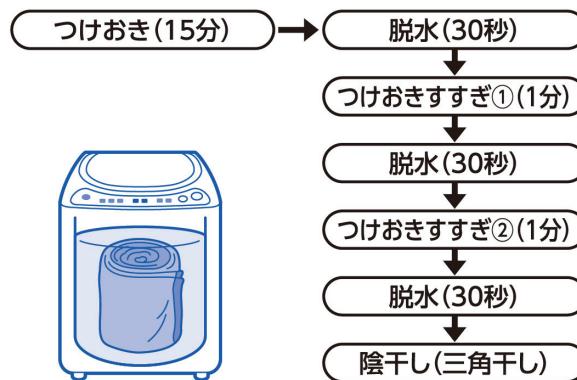


4.丸めて、つけおき

屏風たたみにして、丸めて洗たく機へ入れます。全体がつかるよう、ゆっくり空気を抜くように押し沈めてください。



洗たく機に入らない場合は、おふろ場の浴槽を利用して洗うことができます。この場合、脱水は浴槽のせんを抜き、ある程度水が抜けたら浴槽のふちにかけて、自然に脱水してください。



水滴が一定方向からおちるよう、三角干しで干します。
布団は、乾いたら手でかたよった中綿をほぐして均等にし、
ふくらみを戻せば仕上がりです。毛布は、パイル(毛なみ)の
方向に軽くブラッシングしてください。

お洗たくのコツ③

カーテンの洗い方

1.素材・収縮率の確認

あらかじめ表示されている収縮率を確かめてください。
初めて水洗いするときは、その分だけ縮みます。



レーヨン・レーヨン混紡や、オーダー品など取り扱い絵表示がなく素材や収縮率が分からぬときは洗わないでください。

2.色落ち確認

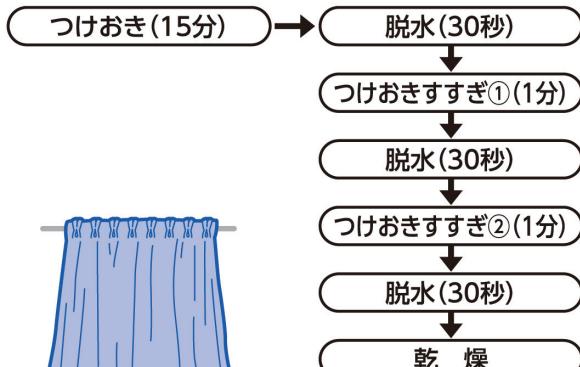
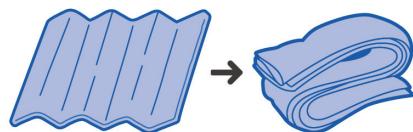
4 ページの色落ち確認の方法にしたがって、確認してください。

3.掃除機やふとんたきでほこりを払ってください。

4.汚れのひどい部分はブラシで前処理

5.屏風たたみにして、つけおき

屏風たたみにして、つけおきます。
まず縦に屏風たたみ、さらに横にも屏風たたみにします。



カーテンレールなどにかけて、
乾かします。

お洗たくのコツ④

ダウンジャケットの洗い方

1.色落ち確認

4 ページの色落ち確認の方法にしたがって、確認してください。

2.汚れのひどい部分はブラシで前処理

3.軽くたたんで、つけおき

衣料全体がつかるよう、ゆっくり空気を抜くように押し沈めます。
このとき、衣料をもまないでください。ダウンが固まり、型くずれの原因になります。



つけおき(15分)

→ 脱水(30秒)

つけおきすぎ①(1分)

→ 脱水(30秒)

つけおきすぎ②(1分)

→ 脱水(30秒)

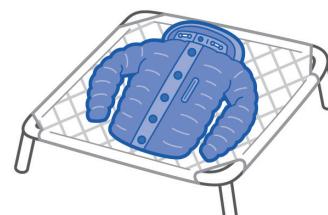
→ 陰干し(平干し)



風通しのいいところで陰干しします。
水を含んで重くなっているので、ハンガーよりも平干しネットなど
平らなところで干すほうが、型くずれを防ぐことができます。
おふろのふたにタオルを敷いたものでも代用できます。

乾きかけた時に、手でかたよったダウンをほぐし、
均等にしておきます。さらに乾かして、全体をポンポンと
たたいてふくらみを戻せば仕上がりです。

※洗たく機をまわすのは
脱水だけです。
ただし、防水性、はつ水性
のものを脱水する場合は、
洗たく機を使わず、手で
押させて脱水してください。



こんな事が起きないために

黄 ば み

- 必ず、陰干ししてください。
(デリケートな繊維は日光に弱く変色しやすくなっています。)
- 鉄分の多い水で洗うと、黄ばむことがありますのでご注意ください。
- 漂白剤との併用は避けてください。
(毛、絹等の繊維は塩素系や酸素系漂白剤で黄変することがあります。)
※漂白剤は繊維との適合性があります。ご使用される際には、衣類の取扱い表示や漂白剤の表示をよく読んでからお使いください。

色 落 ち

- 色落ちしやすいもの、心配なものは、あらかじめ 4 ページの要領で色落ちを確認してください。
(染色・染料によって色落ちしやすいものがあります。)

色 移 り

- 白物と色柄物を分けて洗うのが安全です。
- 洗剤の量が多くすぎたり、水が少なすぎたりした場合、色移りしやすくなります。洗剤の使用量を守ってください。

縮 み

- 30℃以下の水を使ってください。
(特にシルクやウールなど動物性繊維はぬれた状態で強くこすり合せたり、熱いお湯につけると縮みます。)
- 必ず、つけおき洗いで、洗ってください。
- 脱水のかけすぎに注意してください。
- 乾燥機の使用はおやめください。

伸 び

- ニット、毛、アクリルなど伸びやすい素材の物はつるさずに平干しにします。

シ ワ

- 脱水のかけすぎに注意してください。
- きちんとたたんで、つけおき、脱水を行ってください。
- 干す時には、型を整え、シワを伸ばして干してください。(アセテート、絹等、デリケートな繊維は、長い時間脱水すると取れにくいシワになります。)

ファッションドライQ&A

Q1 ファッションドライはどんな洗剤ですか？

A 「つけおき洗い用」の洗剤です。

機械力をかけずに洗うことで、デリケートな衣料や大切なお気に入りの服をやさしく洗えます。組み合わせにこだわった洗浄成分がしっかり汚れを落とし、柔軟仕上成分がふんわり上質に仕上げます。抗菌・防臭効果もあります。
※すべての菌に対して抗菌効果を有するわけではありません。

Q2 お湯やおふろの残り湯を使えますか？

A 使わないでください。

ウール、絹などの天然繊維はお湯を使うと繊維が膨張しやすくなり縮みが大きくなります。また、おふろの残り湯には身体の汚れが含まれているので適しません。

Q3 漂白剤は使えますか？

A 塩素系漂白剤は使えません。

また、デリケートな衣料や繊維のなかには酸素系漂白剤も使えないものがあります。衣類の取扱い表示や漂白剤の表示をよく読んでご使用ください。

Q4 柔軟剤やのり剤は使えますか？

A 使えます。

お好みの風合いに仕上げたいときは、最後の「つけおきすぎ」時にご使用ください。
(ファッションドライは柔軟仕上成分を配合しており、これだけでもふんわり仕上がります。)

Q5 洗たく機の「ドライコース」は使えますか？

(コース名称は機種によります)

A 洗たく機の取扱説明書にしたがってください。

洗たく機によって、洗えるもの、洗剤の使用量が違います。よく読んでご使用ください。
ただし、防水性、はつ水性衣料を洗う場合は使用しないでください。

Q6 洗たく機で脱水するとき 「10秒」という設定ができないのですが。

A 脱水槽が本回転になってから手動で停止させてください。

脱水槽が動きだしてから本回転になると音が変わります。
音が変わってから10秒後に一時停止などのボタンを押して脱水を停止させてください。